

中学生の「税についての作文」優秀作品  
『十日町納税貯蓄組合連合会会長賞』

## 未来のための税

十日町市立 十日町中学校 2年  
福原 悠斗

今年の夏は「十年に一度クラスの高温になる。」と言われているほど暑かった。これも地球温暖化による影響なのか。疑問に思い、調べてみるとIPCCの最新報告書に「人間活動による温暖化で、すでに様々な損害が出ている。」と明記されていた。

地球温暖化を抑制するため、フィンランドやスウェーデンなどの国では、「炭素税」が導入されているそうだ。「炭素税」とは、環境税の一つで、石油や石炭などの化石燃料から排出される二酸化炭素の量に応じて課税される税で、化石燃料の需要を減らすことを目的としている。炭素税を導入した多くの国で二酸化炭素の排出量が削減されていることを知り、僕は「すごいな。」と思った。そして、日本にも環境保全を目的とした税があるのかと思い、調べてみることにした。

日本にも、再生可能エネルギーの導入や省エネ対策をはじめとする地球温暖化対策を強化するため、化石燃料の利用に対して課税される「地球温暖化対策のための税」があることが調べてみてわかった。この税について、僕は、全く知らなかった。しかし、電気やガソリン、灯油などに課税されているため、自分たちの生活にとって、とても身近な税だ。

地球温暖化が大きな問題となっている現在省エネに取り組むことが大切だとわかっているものの、少し暑いと冷房を入れたり、歩いて行ける場所にも、親に車で送ってもらっていた。しかし、「地球温暖化対策税」という税の存在を知った今、家計の負担を減らすために、電気や車の使用を控えるなどして、家計と環境に優しい生活を送れるように頑張っていきたいと思う。

そして、日本でも「脱炭素社会」の実現に向けて、「カーボンプライシング」という政策が近いうちに本格的に導入されると言われている。カーボンプライシングでは、「炭素税」や「排出量取引制度」が代表的だ。炭素に価格をつけ、「見える化」するカーボンプライシングによって、二酸化炭素排出を抑える事のきっかけになると僕は思った。カーボンプライシングを導入することは、消費者は環境に良い商品を選べることができ、企業も環境に配慮した製品の開発が可能になるため、持続可能な生産・消費にもつながると考える。

僕は、税金に対して、余分にかかる・高いなど嫌なイメージを持っていた。しかし、よく調べて考えてみると、税の大切さがわかってきた。今回学んだ炭素税や地球温暖化対策税の存在が、「地球温暖化」という大きな問題に向き合わせてくれた。こうして、「税」には、国民の生活を支えるだけでなく、未来の環境を守るために、僕たちの意識や行動を変える重要な役割もあるんだなと考えた。

これからは、環境に意識して生活していこうと思った。豊かな地球を守るために。